

凡例

1. 用例には大きく分けて、a)小説・随筆・雑誌 b)新聞の記事 c)辞典の三つの種類がある。一部の小説・随筆の用例は言語学研究会編『日本語文法・連語論(資料編)』(むぎ書房 1983)から借用している。出典や断りのない用例は筆者の作例である。
2. 基本動詞 1000 語は『日本語基本動詞用法辞典』『日本語教育基本語彙七種 比較対照表』『国語基本用例辞典』『日本文法・連語論(資料編)』『日本語用言結合価表』『動詞の意味用法の記述的研究』『日文動詞句型解析(上)(下)』を調査し、これらの資料に出る動詞を比較することによって、そのうち四種及び三種の資料に共通の語彙を参考に、若干の修正を加えて、選定した。
3. 活字の都合上中国語の繁体字と簡体字は日本語の漢字に直して示す場合がある。
4. 活字の都合上ハングル字はローマ字に直して示す場合がある。
5. 活字の都合上ロシア字はローマ字に直して示した。
6. 欧米人の姓は原則として大文字のローマ字で表記した。
7. 参考文献は日本語・台湾語・中国語の名前も含め、アルファベット順に並べてある。